

私が男子校で史上初の女子生徒会長を務めた理由^(※1)高理第 33 回卒 加藤 優花^(※2)

私は6年前、相馬高校で生徒会長を務めました。私が相馬高校生だった頃は1学年に10人くらいの女子が理数科に在籍していました。私は大学進学ができて尚かつ家の近くの学校ということで迷わず相馬高校理数科に入りました。憧れていた高校生活でした。しかし実際入学してみると女子の肩身の狭さに驚き正直がっかりしたのを覚えています。入ることができる部活は限られていて、服装もスカートは膝丈という厳しい規則がありました。女子はこうあるべきだといった考えがかなり強く残っていたように思います。

そんな中、入学して2ヶ月経って行われた生徒会選挙に副会長として立候補しました。初めは今の状況を打破するには新しいことを始めなければというただそれだけの理由でした。しかし生徒会として活動していく中で、もっと自分たちの自主性を大切にして積極的に活動できる生徒会にしたいと思うようになりました。そして段々と生徒会長になって生徒会から学校を変えたいと思うようになりました。しかし私が生徒会長になることで代々受け継がれてきた男子校の雰囲気が変われないか、男子が圧倒的に多い中でやっていけるのかという不安がありました。先生方を初めとし様々な人に相談しました。決め手となったのは「本気で相馬高校を良くしたいと思うならば男か女かなんて関係ない。」という生徒指導の先生の一言でした。

生徒会長になって意見箱の設置や生徒会新聞、部活動の応援など今までなかったことに挑戦していきました。そして相馬高校ならではの校歌応援歌練習も女団長として指導に当たりました。女子である私が生徒会長になったことで相馬高校の伝統を潰したくはなかったからです。初めはあまり興味を示さなかった人もいろいろな形で生徒会の活動を知ってもらい機会を増やしたことで関心を持ってくれるようになりました。そして学校全体の雰囲気がその頃から徐々に変わってきた様な気がします。

私が相馬高校で生徒会長を務めた理由は、もっと活発に積極的に高校生活を送り様々なことに挑戦したかったからです。そして男子校の良さを兼ね備えつつ女子も活躍できる環境を作りたいだったからです。現在では女子の生徒会長が続いているということを知って結果的に私の会長時代が完全共学化に向けての一步だったのかなと感じました。

変わるものがあるからこそ変わらないものが輝くのだと思います。今後はぜひ男子校時代の良さを基にしつつ自信を持って自分たちの学校生活を謳歌してほしいと思います。それがやがて新しい歴史や伝統となって相馬高校をより一層輝かせるのだと思います。これからも110年の同窓生皆さんが誇れる相馬高校を創って欲しいと思います。

今後の相馬高校の益々の発展をお祈りしています。

(※1) 創立110周年記念誌『紅の旗』(2009(平成21)年1月発行)「思い出の記」〈ああ、我らが青春の日々よ〉より

(※2) 望月(加藤)優花。平成16(2004)年卒、中村出身

(転記&※脚注 村山)